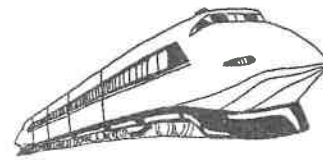


ふれあい雪谷

平成11年
あさがお号



東雪 H・Mさんの作品



上池上自治会 [昔そして今]

自治会
紹介 ⑥

少々古い話になりますが、かつて、池上から長原界隈に至る広い範囲が、上池上町でありました。やがて町名変更という大きな時代の流れの中で、当時の方々は大変ご苦労されたと言われています。

結局、新幹線（当時は品鶴線）を境に北側が上池台、南側が仲池上という地名で落ち着き、二つの町を含め上池上自治会として推移して参りました。より正確に記すなら、上池台五丁目、仲池上一・二丁目全域そして東雪谷五丁目、上池台三丁目の一部ということになります。

当自治会では、この南北に細長く起伏のある地理的条件を考え、北の方から一部、二部、三部と分けておりますが、昭和の始め頃までは、上谷戸、中谷戸、下谷戸ともいわれていました。

次に主な活動をご紹介しますと、六月頃には班長さん、役員さん方等対象の慰安の日帰りバスハイクを行い、秋には防災訓練、敬老会と続きます。特に敬老会は、婦人部の方々にお願いして行いますが、去年は対象の方が五百人を超えました。当日催しにご参加いただける方は百名前後、欠席の全員の方には、前日手分けして記念品をお配りしております。暮には市民消防隊・消防団の皆様が大晦日までの十日間、夜警を行います。

これから地域として、取り組まねばならぬ問題は山積しております。先ず住民相互の親睦、行政等からの情報の正確な伝達、問題解決の為の活動を中心に、どなた様も気軽にご参加頂けるよう雰囲気作りを心掛けて参りたいと思います。なにとぞご協力の程、お願い申し上げます。

(上池上 渡辺昌房)



編集後記

桜の季節も終わり、はや暑い夏がやって来ます。国内外共、なかなか平穏とはいかないようですが、早く平和になつて欲しいものです。

私達編集委員は、より良く、より親しまれる地域情報紙を目指して努力しております。皆様からの身近な情報・ご意見をお寄せください。

(小池 山下雅己)

※編集委員がかわりました。

南雪谷自治会

(新) 飯田七造 (旧) 渋谷十四子

池の台自治会

(新) 岡野喜代子 (旧) 大恵芳子

小池自治会

(新) 山下雅己 (旧) 樽村昌安

「発行」わがまち大田雪谷地区推進委員会

「編集」ふれあい雪谷編集委員会

連絡先 雪谷特別出張所内

大田区東雪谷四一三一二三

電話 三七二九一五一七

「発行日」平成十一年七月一日

通巻第三十五号

*

サークル紹介 ⑥ やきものに魅せられた人々

最近、よくテレビで陶芸の窯出しの様子が放映されます。陶芸作家も素人も一番緊張し感動する瞬間です。

なぜかという、粘土で成型し、釉薬（素人目には泥水）をかけたものが火で焼かれると、入れた時の姿と全く違う美しい姿で現れてきます。焼きものという言葉は、その不思議さを表わし「やきもの」は「化けもの」といつているようです。そして、人々は、まもなくその「化けもの」のとりこになるのです。



では、陶雪会というサークルを紹介しましょう。平成5年1月から3月にかけて、雪谷文化センターで林良達先生の陶芸初心者講座がありました。講座終了後その参加者でサークルを結成。現在の会員15名、林先生の指導のもと月2回活動。文化祭にも出品。即売会も実施。ボランティアでお年寄りや子供達にも教えたいと夢はひろがります。他の3陶芸サークルとも交流。電気窯（月一回使用）は今日もフル回転しています。

(小池 伊藤 昭)

私の健康法 ①

古希に近い私の健康法は、地域のサークル活動への参加です。定年退職をきっかけに、人から勧められた卓球教室がスタートでした。

その後、サークル仲間からの誘いで間口が広がり、週一回の太極拳と、水泳サークルへも通うようになりました。また、歴史同好会へも入会して月一回、都内や近郊の史跡探訪を楽しんでいます。

運動音痴の私が、曲りなりに卓球でラリーし、25メートルプールを泳ぎきれるようになったときは忘れられませんでした。

健康のためと、定年後の生き甲斐を求めたサークル通いも、足掛け十年になりました。今では仲間も増え、合間に交すたわい無いおしゃべりが、心を和ませてくれます。

今年は区民農園にも当選し、益々忙しくなりそうです。出不精の亭主は、出歩く私に一切文句を言わず無関心。「女房元気で留守がいい。」と思っているのでしよう。

(石川台 M・M)



学びの場を広げる

～内館さんの授業から～



治りましたか

戦争が終わった。

平和になった。

私のおじいちゃん、おばあちゃんは、

戦争でけがはしなかった。

だから今はとっても元気。



だけど、

心の中には、

いろいろな深いきずが

あると思う。

おじいちゃん、おばあちゃん

もうそのきずは、治りましたか。

私も手伝います。

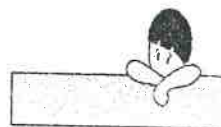
そのきずが、いつかきっと

治るように・・・。

(東雪 永久保智子 12歳)

永久保智子さんのおじいさまは、極寒のシベリアに抑留されて、昭和23年秋に帰国なさいました。おばあさまも、女子挺身隊として、東京の本所で終戦の年の3月、大空襲を体験なさったということです。

◇お風呂の出来ごと◇



私がお風呂に行った時のことです。お子さんをつれたお母さんが入ってきました。風呂場では子供さんは蛇口でいたずらをはじめました。私は、風呂に体をしずめておりました。その時、危ないと思ったやさき、湯舟の中に子供が沈んでいく途中でした。思わず近寄ってすくい上げました。風呂の外に立たせて背中をポンとたたきました。その時子供は、とつぜん張りさけんばかりの声で泣き出したので、水は飲んでないとほっとしました。そして、助かったと思い胸をなでおろしました。

小さいお子さんをもつお母さん達に、十分に注意してもらいたいと思い書きました。

(南雪谷 斉藤さよ 82歳)

自治会長さんがかわりました。

東雪自治会

(新)富岡 忠 (旧)直井 勇

自治会リレー随筆



いりあいち

“入会地としての荏原病院”

都立荏原病院の森は、東雪町内の入会地のような性格をもっていると思う。もともと入会地とは地域住民が薪などを採る共同の林野のことをいう。薪を採りはしないけれども、私たちは病院の森に自由に出入し、これを活用してきた。

病院の中の道は洗足池に通じる川べりに降りていく近道だ。またその森は格好の散策路でもある。

この森で、以前は自治会の防災訓練などもやっていた。子供のころには格好の遊び場でもあった。新しい病棟になって少し自然が減ったのはちょっと寂しい。しかしそれでもかなり自然の環境維持を考えた設計にしてくれていると思う。

また現在は都の防疫所になっているあたりに昔はテニスコートがあった。多分、病院職員の福利厚生用の運動施設で、正式には一般開放されていなかったと思う。しかし、これも子供のころ、よくそこに入り込んで三角ベースなどをやったものだ。

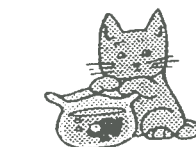
いずれにしても私たちは荏原病院の森を様々なかたちで活用してきたのではないかと思う。これからも町内の貴重な入会地として、荏原病院にはその開放性をずっと維持していったほしいものである。

この病院に入院していた母は、体調の良い朝など、点滴のチューブをつけたまま森の公園に出てきた。出かける家族をそこから手を振って見送ってくれたのを思い出す。あの夏からもう三年になる。

(東雪 清家 篤)



☆俳句☆



迎えたる帰省の孫の還しく

(上池上 森井いと子)

大滝の虹を散らして落ちにけり

(上池上 西川一歩)

夏霧の寸の向うの野の仏

(東中 岩波博庸)

居並びてラムネの玉を鳴らしけり

(南雪谷 大和勲)

年を経しくらし淡白胡瓜もみ

(南雪谷 布田幸子)

猫がゐて人かげなくて路地の夏

(南雪谷 布田落柿亭)